

五月二十日(金)、三十一日(土)、初夏らしい晴天のもと、第七回車座交流会を開催しました。

今回は仙台市ならびに(公財)せんだい男女共同参画財団の協力で、仙台市と宮城県東松島市を訪問しました。JKSK 結核プロジェクトも四年目に入りました。その時々で復興地が抱える課題は変化してきました。現在も乗り越えなければならぬ課題が山積する中、その先に光が見える。そんな印象を持った車座でした。

最初に訪問したのは、津波の爪痕が残る仙台市宮城野区。その南蒲生地区の避難所生活を送った

東北復興日記

95



NPO法人JKSK
理事・事務局長
梶田恵臣さん

女性の視点で避難所作り

方々の話は、今だから心をあつてはならない震をはずめて話せること、今でも涙なしには話せないことばかりでした。

「津波で全てが流されてしまいました。震災によって初めてつながったコミュニティがあ

る。あつてはならない震災だけでも、学んだことも多かった」という言葉。人と人とのつながりが地域を支えるだけでなく、心も支えるという事実を心に刻みました。

二日目の東松島市で

は、農業、水産業で立ち上がる農家の方々、海苔養殖業者の話伺いました。決して止まることのない歩み。どんな困難な時でも、それを乗り越える力…。

午後、財団と仙台市民とで結成した「せんだい防災プロジェクトチーム」が作成したプログラム「みんなのための避難所作り」を体験しました



「写真。女性や多様性の視点を生かした避難所作りの疑似体験で、一時間と短いワークショップでしたが、今回の車座でも印象に残りました。首

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

「防災は東北に学べ」が合言葉です。

都圏だけではなく全国で、町内会や学校区単位で「東北で防災を学ぶ」ツアーが実施されると良いのでは、というアイデアが思い浮かびました。

首都直下型地震、南海トラフ地震の話題が飛び交う昨今、いざというとき、私たちはどのように対応し、困難を乗り越えていったらいいのか。その答えは今の東北にあるのではないのでしょうか。